

# セットレンタルサービスの開始

このたび委託洗濯が業者の都合により取り扱いが無くなる為、院内で代替するサービスを検討する中、「院内感染予防対策」「院内の清潔保持」「患者さまの利便性向上」「患者関係者さまのお洗濯の負担軽減」を目的として、4月1日(土)より新たなセットレンタルサービスへ移行致しました。

本サービスの移行により、委託洗濯と従来のセットレンタルは廃止となります。また、オムツにつきましても今までの使用金額での請求ではなく、日額でのご案内となります。患者さまの使用頻度によりいくつかプランを準備しております。

入院の際、衣類・タオル・日用品・オムツ等の準備が不要になり、専門業者での洗濯の為、患者さまが安心してご利用いただけます。

入院中の患者さまでお申し込みいただいた方は、本日よりご利用いただいております。患者関係者さまのご理解、ご協力の程よろしくお願いたします。

今後も患者さまが快適な入院生活を送れるよう努めさせていただきます。



## 行事食(3/3 ひなまつり)



ちらし寿司、茶碗蒸し、お吸い物、  
菜の花のガーリックソテー  
ひな祭りゼリー

## 編集後記

桜がきれいな季節になりましたね。  
今年度より、広報委員会の担当をさせていただくことになりました。  
皆さんに楽しく読んでいただける広報誌を作れるよう取り組んで参ります。  
どうぞよろしくお願いいたします。



広報委員会 長谷川



医療法人昭友会 埼玉森林病院



埼玉森林病院のホームページ <https://www.kokoro.or.jp/saitama/>

〒355-0807 埼玉県比企郡滑川町和泉 704  
TEL0493-56-3191 FAX0493-56-4831



# ココロをつなぐ芸術展

1月25日(水)~1月29日(日)の5日間、川島町ふれあいセンターフラットピア川島で第8回「ココロをつなぐ芸術展」が開催され、当院も参加して参りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、開催自粛をしていたため3年ぶりの開催となりました。

展示されている作品は、比企地域で暮らす精神障がいのある方が自己表現をしたアート作品です。写真(右)は当院の紹介やプログラムの概要が記載されているポスターです。写真(中央、左)は患者さまの作品で毛糸の帽子、投扇興、羊毛フェルト、など院内のリハビリプログラムで作成したものを展示してくださいました。患者さまからは「皆さん上手に作られますね」「私の物を飾るのは恥ずかしいけど芸術展ができてよかったね」と感想をいただきました。細部まで丁寧に作られた作品は、来場者にも好評いただきました。来年の開催も楽しみにしております。



## オレンジカフェなめがわ

毎月第4金曜日の13:00～15:00にオレンジカフェなめがわを開催しています。オレンジカフェとは、「認知症の方とご家族、地域の方や専門職などが気軽に集い交流と活動をする場」です。コロナ禍で人と関わる機会が減少しているなか感染対策をした上で交流できる貴重な場所となっています。

オレンジカフェなめがわでは茶話会だけでなく各専門職によるミニ講座もあります。先月は当院心理士による「高齢者の心の健康」というテーマでミニ講座を行いました。

次回のオレンジカフェは4月28日(金)に「オレンジカフェについて+ミニゲーム」というテーマで行います。途中参加、途中退席も出来ますのでご興味のある方、お悩みのある方、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(※参加費として100円をいただきます。コーヒー、お茶を用意しております。)

### 【日程】

4月28日(金)

5月26日(金)

6月23日(金)

### 【ミニ講座】

オレンジカフェについて

クイズでわかる熱中症予防

脳を活性化する体操



## デイケア和～なごみ～

デイケア和～なごみ～では、節分に「鬼のモチーフ作り」と「豆まき」を行いました。「鬼のモチーフ」は、ボール紙に毛糸を巻いた台紙を作成し、鬼の顔のパーツを切り抜いて皆さまのセンスで台紙に貼り付けていただきました。

貼り方の角度によって、怖そうな鬼や泣きそうな鬼、優しそうな鬼など、様々な表情の鬼が出来上がり、楽しいモチーフが完成しました。

また、例年の行事である「豆まき」も行い、スタッフが制作したトラ柄の衣装に身を包んだ鬼に、利用者の皆さまが豆(玉入れの玉)をぶつけました。

利用者さまの、力強く容赦ない攻撃に、鬼はノックダウン。鬼退治に成功しました。



## 新型コロナウイルス感染症を振り返って

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、2019年12月初旬に中国の武漢市で1例目の感染者が報告され、日本では2020年1月15日に最初の感染者が確認されました。芸能界では3月29日、志村けんさんの訃報に衝撃を受け、その一か月後4月23日には岡江久美子さんの訃報があり、新型コロナウイルス感染症が身近に感じるようになってきたのは記憶に新しいと思います。

当院の状況を振り返ると、同年1月に届いた埼玉県医師会からの情報を基に、新たな感染症マニュアルの作成と対応が始まりました。環境清掃の強化、スタッフの検温、マスク着用、手指消毒の強化、面会はオンラインにするなど委員会や病院をはじめ、法人としても感染対策の指導や取り組みを常に考える状況になりました。

そのような努力もあり、近隣でクラスターの情報が常にある中でも、当院ではクラスターの発生報告はなく2年間経過しました。しかしながら2022年7月、ついに当院でも患者さまの感染が確認され、その恐ろしさが現実になり、発生病棟を隔離する状況になりました。それまで持ち込まない持ち込ませないと、こんなにも神経を使っていたのにと、残念な気持ちになりました。

発生後は患者さまもスタッフも様々な面で制限され、身体的ストレスに加えて精神的ストレスも大きかったです。その時支えとなったのは他部署の方々からの応援、患者さまの家族からは励ましのお言葉と感謝のお言葉は今でもスタッフの心に残っています。スタッフ一同、協力していただいた方々、いつもご支援とご協力をいただいているご家族への感謝を今後も忘れることはありません。

新型コロナウイルス感染対策が始まって今年で3年目になります。感染症の分類が2類から5類になり、世間では今までの対応から制限が緩和されます。院内での感染対策は見直しながらも、常に予防を意識して今後も感染防止に努めて参ります。

看護部 院内感染対策委員 岡本由紀子

下写真、実際に防護服を使用した姿

